

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇7月17日～

先週は大きく円高が進行しました。

3 月後半以降ずっと続いていたドル／円の上昇トレンドも崩壊。

週足で見ると 137 円あたりのサポートで何とか底打ちし、先週末は上昇に転じてきました。

7 月後半の日米欧の金融政策を前に積み上がった利益を確定する動きや 145 円より上は動きにくいということで、下方向を試す動きが出たのでしょうか。

一部で日銀の金融緩和修正への動きに対する警戒感もあるようです。

7 月の日銀金融政策決定会合で今後の方針について何か言及するかどうかわかりませんが海外勢は、昨年 12 月のように日本の突然の政策変更を警戒している面もあるようです。

日本のイールドカーブ・コントロール(YCC:長短金利操作)の修正が行われるのではないかという思惑もあり、急激に円高が進んだという見方もあります。

昨年 12 月も長期金利の上限を拡大したので、可能性としてはあるかもしれません。

先週発表された米国の消費者物価指数は、3%で予想を下回ったのですが 6 月コア CPI は4.8%とまだ高いインフレ率となっています。

先週は米国の卸売物価指数も発表されましたが数字で見ると限り、インフレ率は着実に鈍化してきています。インフレ率鈍化を受けて、米国株も上昇しました。

今後の利上げがどうなるかわかりませんが少なくともあと 1 回は利上げがあるという予想は大きく変わっていません。

今年は 3 月以降、日本株も為替も調整がないまま上昇が続いていたので、6 月後半から例年よりも少し遅れて調整が来たような感じです。

7 月後半から 8 月は欧米勢が夏休みになるため強い上昇相場になるよりは、停滞もしくは軟調な動きになりやすいです。売買量がいつもよりも少なくなるためです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週は久しぶりにかなり大きく下げました。

高値の 145 円から見ると 8 円ほど下げましたが 137 円を割るような動きにはなっていません。

3 月後半からの上昇トレンドは崩れてしまいましたが今年の年明けの 127 円を底とした上昇トレンドは週足で見てもまだ崩れた形にはなっていません。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

137 円台は今年の 3 月と 5 月につけた高値の位置となっており、このあたりがサポートとして機能すれば、再度 140 円超えを試す動きが出るのではないのでしょうか。

ただし、141円、142円あたりにも抵抗があるので、このあたりでは利益確定を意識した方がよさそうです。

流れが少し円高に変わってきている可能性があるので、買ったポジションも利益が乗ってくれば利益確定しながら次の動きに備えたいです。

下値は、137円を割り込んでくると 135 円あたりまで下がるリスクが出てくるので注意したいです。

<気になるクロス円>

クロス円はドル／円よりも一足先に底打ちして、上昇に転じているペアが多く、週明けからの上昇に期待したいです。

日経平均との連動も見られるため株価が持ち直したこともあり、先週後半は大きく上昇してきたペアも多いです。

今週は、この流れのまま高値更新していくことを期待したいです。

ユーロは155円あたりを維持できれば順調に上昇してくる可能性があります。

7 月後半に利上げすることが確実視されていることがユーロの下値を支える要因になっています。

ポンドは英国のインフレ率はまだ高い状態にあり、スタグフレーションの懸念はあるものの金融引き締めがやめられないジレンマに陥っています。

英国の金融引き締め継続はポンド高要因なので、再度 184 円を目指す動きを期待したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では6月貿易統計、6 月全国消費者物価指数などがあります。

米国では 7 月ニューヨーク連銀製造業景気指数、6 月小売売上高、6 月鉱工業生産、5 月対米証券投資、6 月住宅着工件数、前週分新規失業保険申請件数、7 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、6 月中古住宅販売件数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏でラガルドECB・総裁発言、6 月消費者物価指数などがあります。

ほかには中国で 4－6 月期GDP、英国とカナダで消費者物価指数、南アフリカとトルコで政策金利の発表などがあります。